

市会議案第 16 号

带状疱疹ワクチンに対する助成及び定期接種化を求める意見書

上記の議案を提出する。

令和 4 年 12 月 20 日提出

吹田市議会議員	小北 一美
---------	-------

同	矢野伸一郎
---	-------

同	橋本 潤
---	------

同	山根 建人
---	-------

同	玉井美樹子
---	-------

带状疱疹ワクチンに対する助成及び定期接種化を求める意見書（案）

带状疱疹は、過去に水痘（水ぼうそう）に罹患した者が、加齢や過労、ストレスなどによる免疫力の低下が原因となり、体内に潜伏する水痘・带状疱疹ウイルスが再燃し、発症する疾患である。

日本では、多くの者が幼少期に水痘に罹患するため、成人の9割以上が同ウイルスを保有しているが、免疫力の低下により50歳代から発症率が高くなり、80歳までに3人に一人が発症すると言われている。

带状疱疹を発症すると、一般的には痛みを伴う皮膚症状が数週間にわたり現れるが、場合によっては、神経の損傷が原因となり、その後も痛みが続く「带状疱疹後神経痛」と呼ばれる合併症が起こり、治療が長期間に及ぶケースもある。また、その他にも、角膜炎、顔面神経麻痺、難聴などを引き起こし、目や耳に障害が残ることもある。

これらの症状を引き起こすおそれのある带状疱疹の発症を予防するためには、ワクチン接種が有効とされており、無毒化したウイルスを使った不活化ワクチンは90%以上の人に予防効果がある。しかし一方で、接種費用が高額になることから、接種を諦める高齢者も少なくない。

よって、本市議会は政府及び国会に対し、一定の年齢以上の国民に対するワクチンの有効性等を早急に確認し、带状疱疹ワクチンの助成制度の創設や、予防接種法に基づく定期接種化を行うよう強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年12月 日

吹 田 市 議 会